
ある王女様のはなし

神奈備

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある王女様のはなし

【Nコード】

N0401A

【作者名】

神奈備

【あらすじ】

王女様専任の教師のコークは王女様を探していました。二人の短い物語。

ある国のある王女様のお話です。

「コークはあのお方を信じられません。」

いかにも憤慨したというような少年がいました。

彼は頭が異常に発達していたため、お城で王女様専任の教師をしていました。

「どうしたのかね、コーク君。」

「また王女様が勉強を嫌がって逃げました。」

コークはそう答えました。

「そのおかげで昨日の昼からしていた頭痛はひどくなりましたし、守衛隊の隊長は倒れられました。」

「そうか。すまないいな。」

「いえ、王のせいではありませんから。」

きっぱりとした声はしっかりとしていた。

王女様を探すため、満開のバラの咲く庭を通り抜けたコークの肩には葉っぱが乗っていました。

バラたちは綺麗だったのですが、コークの目には入ってきませんでした。

「一体いずこにいかれたのか…」

「ここよ。」

コークはある一本の木を見上げました。

そこには、太い枝に腰かけたいたずらっこがいました。

「ここにおられましたか。」

「ねえ、コークも上がってこない？」

「私はインドア派なのですが…」

少し困った顔をしましたが、コークは登り始めました。

でも、コークには登ることができませんでした。登ろうとする度に枝が片っ端から折れていくのです。

何故だろうと疑問に思いましたが、答えは分かりませんでした。

王女様はあきれてしまいました。コークはあまり気にしませんでした。

「このまま話をしましょ！」

「ありがとうございます。」

コークは苦笑しながら木の根のはっている上に座り込みました。

「コークはこの国が好き？」

「好きですよ。」

何をあたりまえなことを？とでも言いたげでした。

「じゃあ、私のことは？」

「好きですよ。お使えする身としましては、もう少しおしとやかにしていただきたいのですが。」

はあ、っと息を吐きました。

「そう。」

王女様も少しつらそうに息を吐きました。彼女にも悩みがあるようです。

頭を上げて上を向くとすねたような顔をしていました。

「別の意味でも、好きです。」

風にかき消されかねない声でした。

彼女に思いは届きはしないのはわかっているが、手を伸ばしてしまう自分が好きじゃない。そうコークは思いました。

「好きです。」

それに答えようとはしない王女様。一体どうしたのでしょ。

「私、降りるわ。」

王女様は木をいきなり降り始めました。

一步一步すいすいと降りてきている、そう見えました。ですが、それは間違いでした。

「危ない！」

「えっ？」

その瞬間、足元の枝が折れ王女様は真っ逆様に。

「コークに国外追放を命ず。」

王様の顔には何の表情もありませんでした。

コークにも何の表情もありませんでした。それはある程度わかって
いたことでしたから。

「失礼いたします。」

コークは王女様には別れを告げませんでした。

「これでこのお話は終わりです。」

ある村のある教師が言いました。

「ええ！？これで終わりなのお？」

その教師はその村の中で一番頭がいい大人でした。

「では、続きはみんなで創ってみましょう！」

ある女の子は言いました。

「きつと王女様はコークの後を追ってきたとおもうわ。」

ある男の子は言いました。

「けっ、メロドラマじゃあるまいし。もっと現実的に考えろよ！王
女が教師なんか相手にするかよ！？」

それから、女の子の意見と男の子の意見で対立を始めました。

「コーク！」

遠くから良く見知った声が届きました。それは今では王妃となった
人の声でした。

「お久しぶりです。」

逆光が目には痛かったけれど、彼は幸せそうな顔をしていました。
何が幸せだったのかなんて誰にもわかりません。

これでこの話は本当におしまい。次はいつ会えるかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0401a/>

ある王女様のはなし

2010年12月17日17時57分発行